



佐久間町の民俗をテーマに
講義する中山正典さん
浜松市天竜区佐久間町で

ダム事業や地質 天竜川の勉強会

佐久間で住民ら

天竜川に関わる事業や流域の文化などをテーマにした「天竜川勉強会」が、浜松市天竜区佐久間町の佐久間歴史と民話の郷会館であり、住民ら百二十人が専門家の講義に耳を傾けた。

遠州常民文化談話会が昨年12月に発刊した報告書「佐久間の民俗」の中で、産業分野を執筆した磐田市歴史文書館職員の中山正典さん

(笑)が登壇。中山さんは二十年前、佐久間町で民俗調査に携わり、佐久間ダム事業に伴い水没した集落の歴史などを当時の地図や写真を示して紹介した。

佐久間町出身で名古屋大学の道林克禎教授(金)は天竜川の地質をテーマに、町内を走る国内最大の断層帯、中央構造線で仕切られた地質の違いを解説した。

勉強会は、市と国土交通省浜松河川国道事務所主催で六回目。

(島將之)

この記事 写真は中日新聞社の許諾を得て掲載しています。

天竜川勉強会 佐久間を学ぶ

浜松河川国道など

国土交通省浜松河川国道事務所と浜松市は、浜松市天竜区で佐久間ダム完成後の地域社会について学ぶ「天竜川勉強会」



中山正典氏が佐久間の民俗文化を解説した

を開催した。東畑昌利天竜区副区長は「佐久間の文化と伝統を熟知した講師の話聞き、地域の貴重な財産を再認識してほしい」とあ

いさつした。

勉強会の前半には、磐田市歴史文書館の中山正典氏が講演。「佐久間の民俗をテーマに、佐久間ダム建設により水没した集落に伝わっていた舞踊花の舞などについて語った。後半では佐久間地区出身の名古屋大学道林克禎教授が、佐久間地区周辺の地質構造について解説した。

この記事 写真は建通新聞社の許諾を得て掲載しています。